

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	言語聴覚
学籍番号	16S3025	院生氏名	佐々木香緒里
通学キャンパス	成田キャンパス		
論文題目	自閉症スペクトラム障害におけるオノマトペの理解 ：感覚処理特性と社会的認知からの検討		
審査結果(枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	
<p><審査結果の要旨></p> <p>自閉症スペクトラム障害(ASD)は、対人的コミュニケーションに問題を呈し、言語の獲得にも特異的な障害を呈する。語のうちオノマトペ(擬態語、擬情語等)は、身体感覚や心情を表現する語であることから、感覚処理や心の理論(theory of mind)に障害をもつASD児はその獲得が困難なことが予想される。しかしASD児のオノマトペの獲得とそれに関連する要因を検討した研究はこれまでに存在しない。</p> <p>本研究の目的は、ASD児のオノマトペの理解について、その特性および感覚処理(sensory processing)と社会的認知機能(social cognition)との関連性を検討することであった。対象は8~9歳のASD児15名、対照群として同年齢の定型発達児16名であった。一般的語彙の理解をPVT-Rで評価し両群に差がないことを確認した。方法は、感覚を表現する擬音語・擬態語30個および心情を表現する擬情語30個のオノマトペ理解課題を作成し実施した。手続きは、パソコンモニターに絵と文章を提示し、対応するオノマトペを選択してもらった。感覚機能は感覚プロファイル(SP)、社会的認知機能は対人応答性尺度(SRS-2 児童版)を実施し、オノマトペの理解との関連性を調べた。</p> <p>その結果、ASD群はTD群よりオノマトペの理解が有意に低下した。またASD児の擬音語・擬態語の成績はSP得点、擬情語の成績はSP得点・SRS-2得点との間に有意な負相関を示した。重回帰分析では、擬音語・擬態語の理解の説明変数としてSPの「感覚過敏」、擬情語の理解の説明変数としてSPの「感覚探求」およびSRS-2の「興味の限局と反復行動」が選択された。</p> <p>以上から、ASD児のオノマトペの理解には、感覚処理および社会的認知機能が関与し、これらに特異性をもつASD児はオノマトペの獲得が順調に進まないことが明らかとなった。この結果を踏まえ、臨床においてはこのような障害特性を考慮したコミュニケーション指導プログラムの開発が必要であることが示唆された。</p> <p>ASD児のオノマトペの理解について、その障害特性および感覚処理/社会的認知機能との関連性を検討した研究は存在せず、本研究の新規性は高いと考えられる。また、この研究成果は、ASDのコミュニケーション指導方法を検討するうえで、有用な資料になると考えられる。</p> <p>審査は、3回実施した。本研究に、倫理的問題はなく、研究方法について問題は認めなかったが、論証方法や言語表現に分かりにくい箇所が存在した。そこで、2回、修正を求めたところ、適切に修正された。また、口頭試問では適切に回答された。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(言語聴覚学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 藤田郁代</p> <p>副 査 下泉秀夫</p> <p>副 査 相澤和美</p>		